



伊藤 房代 議員



道路の安全対策について

問 あさひ鎌数工業団地とその周辺、谷丁場遊正線沿いの道路は、夜になるとほとんど照明がなく暗いため、歩道との区別がつきにくく危険。街路灯または防犯灯の設置はできないか。

答 夜間における歩行者の数や交通状況を把握して、照明設備の必要性を精査した上で、地元区や関係団体と協議をしていく。

鳥インフルエンザ対策を

問 国内の養鶏場で鳥インフルエンザの感染が異例のペースで発生している。このウィルスは、主に秋から翌年春にかけて渡来する渡り鳥が運んでくるため、今シーズンはさらに感染が広がり、被害の拡大が懸念されるが、本市ではどのような対策をしているのか。

答 家畜防疫に必要な消毒液や消石灰の購入について補助を行っているほか、渡り鳥の飛来

シーズンを合わせ、野鳥への餌づけをしないよう広報で呼びかけている。

市では、家畜伝染病が発生した場合に備えて、初動防疫や対応内容を記載した「旭市急性悪性家畜伝染病発生時対応マニュアル」を策定している。また、毎年県の主催で、家畜伝染病の防疫演習やサブステーションの設営演習が開催されているので、そこに参加し、スムーズな初動防疫ができるように取り組んでいる。

スマホ教室の開催拡大を

問 デジタル社会の中で高齢者を置き去りにしないよう、高齢者向けのスマートフォン教室をもっと開催するべきでは。

答 通信業者と連携した市民会館の講座として、本年8月に開催したところ、20名の受講があった。引き続き、公民館等の生涯学習施設の講座として実施していきたいと考えている。

その他の質問事項

- 中小企業支援制度について
- 生活福祉資金について
- コロナワクチン接種について
- AEDについて

東総クリーンセンターのダイオキシン検出について

問 東総クリーンセンターで法定基準の2倍のダイオキシン類が検出された問題について、その原因は。

答 原因は一時的に焼却室の温度が若干低くなったこと、一酸化炭素濃度のピーク発生回数が多くなったことが推測される。

問 850度以上で管理され、ダイオキシンが発生しないはずの溶融炉の温度が下がったことに問題がある。今回の件を契機に溶融炉方式を見直してはどうか。

答 処理方式の選定は適正であったと考える。

令和5年度の事業計画について

問 学校給食費の無料化については新たな財政負担が必要になり、国・県の動向を見て検討する」と言っていたが、その後どうなった

のか。

答 県が第3子の無料化を始めるところであり、本市でも無料化の対象が拡充した。来年度も継続して実施する予定。

問 デマンドタクシーの改善計画について「令和4年度末までに地域公共交通計画を策定するにあたり、アンケート調査や業者へのヒアリングを実施し、サービス内容の検討に入る」と言っていたが、その結果はどうなったか。

答 基盤調査として市民やデマンド交通利用登録者、集客施設利用者を対象としたアンケート調査などを実施し、デマンド交通の現況や課題の調査を行った。1月中に計画案を策定し、3月中に計画を策定する予定。

問 令和4年度より未就学児の国保税均等割が5割軽減となったが、均等割廃止について検討はしたか。

答 今般の未就学児に対する軽減は、減は、全国一律の制度として公費を投入して実施しており、国の基準を超えた市独自の軽減は、条例で定めることができない。

その他の質問事項

- 住みよい住環境の確保について
- 元総理安倍氏の国葬について



松木 源太郎 議員

